みごとな作品がいっぱい

文化祭行事終る

各自が春以来、工夫をこらし丹精こめた作品が体育館いっぱいに飾られ、しかもその作品がみんな優秀で観覧の皆なさんの心と目を楽しませてくれました。

菊花展一〇八点、盆栽展一五四点の出展と児童、生徒、婦人会等の作品で今年も各会場とも盛会に終りました。

菊花展成績は次の通り。

部門別優等賞

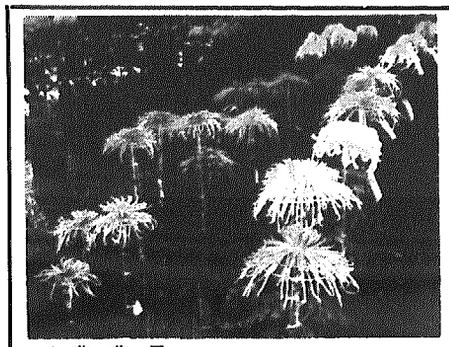
〈指定花の部〉

○厚物三幹　小林平太郎
○細物三幹　佐藤　文治
○厚物一幹　藤田ミヨイ
○細物一幹　堀越　信一
○一文字　堀越　信一
○指定花総合優勝　堀越　信一

〈一般花の部〉

○厚物三幹　堀越　信一
○細物三幹　鷲沢　実
○厚物一幹　堀越　信一
○細物一幹　阿部　元安
○数咲厚　堀越　信一
○数咲細　阿部　元安
○懸崖　堀越　信一
○盆栽（花）　堀越　信一
○盆栽（花）　中村　宏一
○福助厚　渡辺　寅平
○福助組　堀越　信一

◎総合優勝　堀越　信一
〃　二位　池田　隈
〃　三位　阿部　元安
〃　四位　小林平太郎
〃　五位　木村　孝一
〃　六位　由井　助松
〃　七位　竹内　藤市
〃　八位　田中比古一
〃　九位　真島　俊子
〃　十位　藤田ミヨイ



▲菊花展

▼盆栽展

親・子でハイキングを楽しむ
～和納地区子ども会～

秋晴れの青い空、じゅうたんを敷きつめたような紅葉の弥彦山、蒲原平野ならではの、たも木の美しさにみとれながら子供達とゆっくり歩く何年ぶりだろうか、前日の!!明日の天気予報は曇りのち雨だった、と子供のガックリした顔と翌朝の今日は晴れるから行くんだって!!の子供のうれしそうな顔……晴れてよかった。夏井山を通って弥彦公園につく、かわいたノドに育成会役員の方々の作ってくれたみそ汁がとてもおいしい!ナカナカ作れるものではない。こんな沢山作るのですから準備も大変だったことでしょう。

弥彦山を背に和納に向う、帰りは、歩きなれないせいか足が重い。ドングリを拾ったり、草の勲章をつけたり自然に目をむける親子の会話も楽しめた。又来ようね、と疲れを知らぬ子供の声、歩いて良かった、皆んな楽しさいっぱいでした。

多勢の子ども達を事故もなく引率して下さった父兄の方々、本当にありがとうございました。親の背を見て、子は育つ、と言います。

大人を見て子どもは育って行きます。子ども達のために前向きに働いて下さる育成会の方々、知らず知らずのうちにこれからを生きようとする子ども達に良き教となっていると思います。これこそ無言の生きた社会教育ではないでしょうか。いつまでもこの灯をたやすことなく続けていって戴きたいと思います。

スクスク伸びる子ども達の健全育成を今後共お願いし、これからもモットモットよい計画を立て実施して行きたいと思います。

（和納育成会会長大岩清一）

五十一年度
王座戦　新人戦　村民将棋大会成績

去る十一月十四日、村将棋好友会主催で、本年度の王座戦、新人戦が村内愛好家、三〇名を集めて行われ、熱戦を展開、次の方々が入賞しました。

王座戦

一位　後藤　清（岩室）
二位　佐藤幸男（和納三区）
三位　山上　勇（夏井）

新人戦

一位　松本静司（岩室）
二位　大越達雄（高橋）
三位　上田幸弘（和納二区）

岩室村青年団主催
ダンスパーティー

とき　十二月二十五日
ところ　岩室村民体育館
テーマ　若さの発散から若さの集結へ

日頃、勤労に従事している青年が一堂に集い、友好親善の場とし集団活動の成果をパーティーを通じて、仲間意識を育てながら明るい郷土社会の建設に役立てようとするものであります。

どうぞお友達お誘い合せのうえ多数参加下さるようお待ちします。

第三回
元旦マラソンに参加を

新しい年の始めにあたり、あらたな希望をいだいて皆んなで走ろう。

第三回元旦マラソン大会を計画して居ります。ご近所お友達を誘い合せのうえ多数参加下さるよう、又、大会がスムースに盛会のうちに終了出来ますよう今から準備運動をし、コンディションつくりを行なうようお願いします。

尚、細部については回覧でご案内致します。

村の話題

自からの信念をきめ、地道に努力し、研究し、それを生きがいにしている人はたくさんおります。そのなかから次のお二人の話題について紹介します。

樋口ナナ子（北野）さんの体験記録が毎日農業記録賞に

▲理想と希望に向って着実に歩みます……と樋口さん

毎日新聞主催による、毎日農業記録賞に本村樋口ナナ子（北野）さんの生活記録が地区入賞しました。

明かるい農村社会を築いていく方法の探求と、それをなし遂げた喜びや、苦しみなどの体験をまとめるもので、樋口さんは、「農業家日の明日を信じて」と題しまとめたものです。

私は農家の生れではありませんでしたが、日頃から農業に大きな憧れをもっていました。

土と緑と自然に恵れた農業の「よさ」と問題点、生活設計、グループ活動の重要性、の四つを柱に現状を真剣にみつめ分析しながら、将来への展望をのべております。

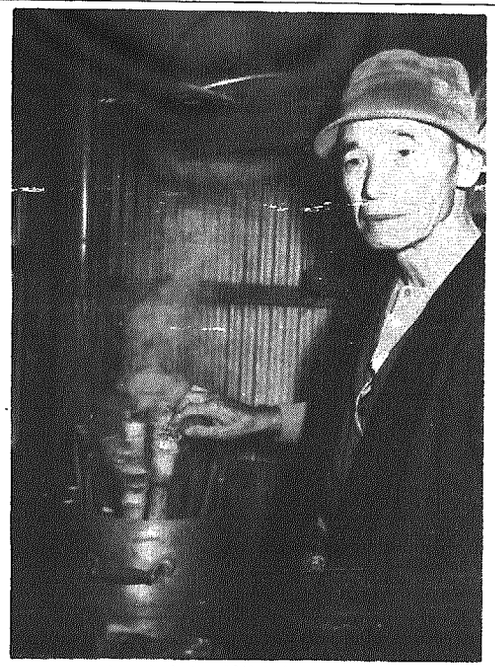
自分で物を創り出す農家　他人に支配されない農家……そんな農家の暮しに夢をえがき、嫁いで八年、今では、立派な農業者になりきったつもりでいます……。で始まり、経営の概況、

なかでも、「三人の子ども達と共に農業をしてほしい」と私は希望をいいますが夫は笑いながら「夢だけに終らなければよいが」というのです。私は大きなショックを受けました。これだけ精根こめている農業が五十才すぎたら無理、子どもは農業をしないかも知れない……では、あまりにもさびしく空しいといい、現在の農業に対する考え方、更には若い人たちの価値感を間接的にうったえているところは考えさせられます。

入賞の喜びより、むしろ私がここまで農業を考えられるようになったことの方がよりうれしいといい、これからは、妻であり、専門的な知識を習得する、積極性は必要ですとキッパリいいきる姿は農業人としての誇りに満ち満ちていました。

六六〇坪のハウスと受託耕作を含めて七ヘクタールの水田、加えて家庭では三人の親として多忙な毎日であっても、専業農家の若妻のあつまりである若苗会でのリーダーシップは続けたいと話す頼もしい樋口さん、今後一層の活躍を期待したいと思います。

尺八・笛づくりの名人
伊藤栄吉（和納1区）さん



▲フシをぬいだ竹を煮る伊藤さん

和納一区の伊藤栄吉さんは尺八、笛づくりで老後を楽しんでいます。

もともと伊藤さんは、和納十五夜神事の囃し方として笛を担当しており、長い経験ときびしい訓練をもって完成された音色には定評があります。

今から十八年前、笛、特有の音色に魅せられ、ふくだけではあきたらず、当時尺八づくりの名人とされていた弥彦村の山添友三郎氏のもとへ通い、技法を習得し以来、自分なりに研究工夫を続け近年やっと満足できるものができるようになったとのことです。

最近このことが新聞紙上に紹介されたことから、県内外から激励やら製作依頼が殺倒しうれしい悲鳴といったところです。

特に尺八、笛は、音色が生命なので、せいぜいがんばっても一年で四～五本がやっとで、三年も前にたのまれたものがまだ完成してない始末で、中には待ちきれず、音がでなくてもいいから早くほしいという人もあり、これには困りましたと苦笑し、決して金もうけのためにやっているのでなく趣味として気ままに、一本一本精根こめて完成させたいと話す伊藤さんの顔からは、はちきれんばかりの若さが感じられました。